

は じ め に

2025 年のノーベル賞では、日本人 2 名が受賞しました。生理学・医学賞の坂口志文氏の研究は現在の医学に、化学賞の北川進氏の研究は環境・エネルギー分野の問題解決に向けて、貢献されています。インタビューでは、お二人とも、苦しい時にあっても興味を持続して努力を続けることの大切さを強調されていました。「自分で興味があることを大切にすると新しいものが見えてくる。ずっと続けると気が付いたら面白い境地に達する。」と坂口氏は仰ったそうです。好奇心をもち、粘り強く取り組む活動が、いつか人々の幸せや困難を克服する力につながっていくと思うと、子どもたちには「なぜだろう」「もっと知りたい」と思う気持ちやそれらを探究するゆとりを持たせてあげたいと願ってやみません。

さて、今年度の岸和田市科学作品展には、岸和田市の小学校・中学校から 2221 作品の応募があり、校内審査を経て、389 作品が出品されました。その中から、特選 62 作品、入選 169 作品、佳作 28 作品が選出され、さらに特選作品の中から科学研究の成果を競う大阪府学生科学賞の応募作品（小学生 6 点、中学生 6 点）が選出されました。どの作品も学習への意欲や創意工夫、斬新な発想が感じられるものでありました。これらの科学作品を作成するために試行錯誤を重ねるなかで、自然事象についての知識理解とともに科学的な思考表現や観察実験の技能が、ますます身に付いたことと思います。

本ホームページは、岸和田市小・中学校科学作品展応募の研究物の中から、小学校 4 年生以上の特選に選ばれた作品の研究内容を集約したものです。今後、より多くの児童・生徒のみなさんの参考になり、自然の見方や科学的な思考力、研究の進め方に役立つことを期待しています。

最後になりましたが、努力した児童・生徒のみなさん、ご指導にあたられた先生方の熱意とご努力に対し、深く敬意を表します。また、科学作品展の実施にあたり、ご協力いただきました理科教育推進委員の先生方、岸和田市小学校教育研究会、岸和田市中学校教育研究会に対し、厚くお礼申し上げます。

令和 8 年 2 月

岸和田市教育委員会
学校教育課長 石井 良和